



図1. アカアシヒゲナガゾウムシが羽化脱出したマメアサガオ白さび病菌の菌瘻(直径20 mm).

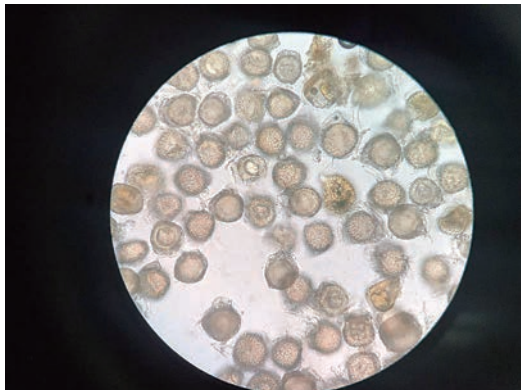


図2. マメアサガオ白さび病菌の生卵器(出川洋介氏同定).

なく、数日後に死亡した。

切断した瘤から黄褐色の粉末が得られたため、生理食塩水を滴下したプレパラートを作成し生物顕微鏡にて観察したところ、多くの微細な球状物(図2)が確認された。後にこれは出川洋介氏(筑波大学山岳科学センター)により *Albugo* 属の生卵器であると同定され、ホストや発生の状況からマメアサガオ白さび病菌 *Albugo ipomoeae-panduratae* (Schweinitz) Swingle f. sp. *lacunosae* Toy. Sato & Y. Degawa (Sato *et al.*, 2009) により形成された菌瘻であることが分かった。

その後も観察を続けていたところ、同月23日から26日にかけて20 mmの菌瘻より大量のフラスとともにヒゲナガゾウムシ科の成虫が19頭脱出した。また、同年3月14日から15日にかけて、10 mmの菌瘻より同じ成虫が3頭脱出した。この成虫は妹尾俊男氏によりアカアシヒゲナガゾウムシと同定された。

成虫と菌瘻片を同容器に入れて飼育したところ、摂食していると思われる様子が観察されたが、ど

の個体も約1ヶ月で死亡した。

本種がどのように菌瘻に潜入したかは不明であるが、温暖条件下において羽化脱出したことから、発育に不適な冬季になる前に菌瘻に産卵し、越冬しているものと考えられる。

本種が菌をどのように利用し、分散に関与しているかについて、今後も調査を続けたい。

末筆ではあるが、ヒゲナガゾウムシの同定、菌瘻の同定、および執筆への協力を賜った岩田隆太郎氏(日本大学生物資源科学部)、妹尾俊男氏、出川洋介氏(筑波大学山岳科学センター)、佐藤豊三氏(新潟食料農業大学)、太田祐子氏(日本大学生物資源科学部)に感謝申し上げます。

#### 引用文献

- 森本 桂・沢田佳久, 1998. ゾウムシ上科, 石井 実・大谷 剛・常喜 豊(編). 日本動物大百科第10巻 昆虫 III. 151-154.
- Sato, T., Okamoto, J., Degawa, Y., Matsunari, S., Takahashi, K. & Tomioka, K. 2009. White rust of *Ipomoea* caused by *Albugo ipomoeae-panduratae* and *A. ipomoeae-hardwickii* and their host specificity. *Journal of General Plant Pathology*, (75) : 46-51.
- Takakura, K. & Yamazaki, K. 2004. *Araecerus tarsalis* (Sharp) (Coleoptera, Anthribidae) as a seed predator. *Elytra*, 32 (1) : 138.

(野間健吾 252-0880 藤沢市亀井野 1866

日本大学生物資源科学部 生物学研究室)

#### 【短報】石川県におけるコウチュウ目6種の初記録

筆者らは、石川県初記録となるコウチュウ目6種を採集したので報告する。セスジムシ *Omoglymmius crassiusculus* (Lewis, 1888) を除いた5種は、ブナの倒木および立ち枯れでスプレー法または目視により採集したもの、セスジムシは朽ちた倒木の樹皮下から採集したものである。同定は佐藤(1985)、大原(1996)および平野(2009; 2010)を参考にした。

報告に先立ち、セスジムシ科の同定についてご教示いただいた愛媛大学農学部環境昆虫学研究室の吉田一樹氏、一部の採集にご同行いただいた石川県ふれあい昆虫館の須田将崇氏に心よりお礼申し上げます。

#### セスジムシ科 Rhyssodidae

ホソセスジムシ *Yamatosa niponensis* (Lewis, 1888)

1 ex., 白山市桑島 大嵐山, 4. VI. 2018, 渡部採集; 1 ex., 同地, 4. VI. 2018, 福富採集(図1); 1 ex., 同地, 17. VII. 2019, 渡部採集; 1 ex., 同地, 17. VII. 2019,



図1-6. 石川県初記録となる6種. 1, ホソセスジムシ; 2, セスジムシ; 3, ホソエンマムシ; 4, ムナビロネスイ; 5, ムクゲネスイ; 6, クズリュウムクゲキスイ.

#### 福富採集.

セスジムシ *Omoglymmius crassiusculus* (Lewis, 1888)  
1♂, 白山市白峰, 29. V. 2019, 渡部採集 (図2).

石川県におけるセスジムシ科の記録は1948年に採集されたトビイロセスジムシ *Rhysodes comes* (Lewis, 1888) 1例のみが知られる(石川県, 1998). 本報告は *Yamatosa* 属および *Omoglymmius* 属の石川県初記録であると同時に県下70年ぶりとなるセスジムシ科の記録である. セスジムシは, 中胸・後胸・腹部のみの死骸を採集したものであるが, 雄交尾器の確認により同定した.

#### エンマムシ科 Histeridae

ホソエンマムシ *Niponius impressicollis* Lewis, 1885  
1 ex., 白山市桑島 大嵐山, 17. VII. 2019, 渡部採集 (図3).

#### ネスイムシ科 Monotomidae

ムナビロネスイ *Rhizophagus nobilis* Lewis, 1884  
1 ex., 白山市桑島, 29. V. 2019, 渡部採集; 2 exs., 白山市桑島 大嵐山, 17. VII. 2019, 渡部採集 (図4).  
ムクゲネスイ *Rhizophagus subvillosus* Reitter, 1884  
2 exs., 白山市桑島 大嵐山, 17. VII. 2019, 渡部採集 (図5).

本報告により石川県産 *Rhizophagus* 属の記録は4種となる.

#### ムクゲキスイムシ科 Biphyllidae

クズリュウムクゲキスイ *Biphyllus kuzurii* Sasaji, 1985  
2 exs., 白山市桑島 大嵐山, 17. VII. 2019, 渡部採集 (図6).

本報告により石川県産 *Biphyllus* 属の記録は10種となる.

#### 引用文献

- 平野幸彦, 2009. 日本産ヒラタムシ上科図説 第1巻 ヒメキノコムシ科・ネスイムシ科・チビヒラタムシ科. 63 pp. 昆虫文献六本脚.  
平野幸彦, 2010. 日本産ヒラタムシ上科図説 第2巻 ホソヒラタムシ科・キスイモドキ科・ムクゲキスイムシ科. 61 pp. 昆虫文献六本脚.  
石川県, 1998. 石川県の昆虫. 537 pp. 石川県環境安全部自然保護課.  
大原昌宏, 1996. 日本産エンマムシ概説 II - ホソエンマムシ亜科, コブエンマムシ亜科, セスジエンマムシ亜科, アナアキエンマムシ亜科 - 甲虫ニュース, (114): 1-5.  
佐藤正孝, 1985. セスジムシ科 Rhysodidae. pp. 2-4, pl. 1. 上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝編, 原色日本甲虫図鑑 II. 保育社.

(渡部晃平・福富宏和 920-2113 白山市八幡町戊3番地 石川県ふれあい昆虫館)

#### 【短報】タケトラカミキリの訪花を観察

タケトラカミキリ *Chlorophorus annularis* (Fabricius, 1787) の日本国内での訪花については, 新里 (2007) および鈴木 (2019) によれば, 「ときに(まれに)花上からも得られる」などとあるが, 植物名などの具体的な情報は記されていない. また, 筆者の観察経験や知人からの伝聞でも, 本種が訪花したという国内の事例を確認していない. 今回, 下記のように訪花した本種を観察しているので報告する.

2♀♀, 神奈川県横浜市都筑区牛久保, 18. VII. 2019; 1♀, 同地, 1. VIII. 2019. 両例ともに日下部